

「であい・ふれあい・まなびあい」から
「つながりあい・ささえあい」へ

おおつ! おおおか! 再発見 大岡集楽学校

大岡全十区をフィールドに歩きながら考える『集楽学校』。第五回目は和平。「であい・ふれあい・まなびあい」から「つながりあい・ささえあい」へ、をテーマに、今年と来年で大岡を北から順に探訪していきます。各区をめぐるながら、地元の方からの説明や宮下先生の解説を交え、先人の声に耳を澄ませ、地域に伝えられた文化を掘り起こし明日の「集楽」を皆で共に考えます。

其之五
和平
わだいら
平成27年
11/8(日)



和平コース概略

支所前バス受付

開校式 ● 大田和・梶平生活改善センター

- ① 梶平 秋深まる集落風景
- ② 大田和 古民家を訪ねて
- ③ 和平 分校跡と古資料拝見
- ④ 和平地区センター
津島社参拝
*昼食 ● 和平地区センター
和平の方による協力
- ⑤ 仏風古土蔵を訪ねて、集落散策
- ⑥ ● 和平地区センター
スライドで集落探訪
女蔵里ほか
- ⑦ 講師のお話・座談

主催/大岡住民自治協議会
和平区
共催/長野市大岡支所
大岡中学校・大岡小学校



其之五
和平

1 梶平 集落を訪ねて

静かな隠れ里の趣、
眼前に水田風景一望。

◎梶平地区は大田和から北西方へ、樋ノ口沢と犀川に沿って延びる細長い峰を入った標高570mの集落。現在居住は3軒です。

◎集落入口には道祖神・二十三夜塔。珍しい円形の道祖神は縁に木枠用の溝があります。この石は元々「楯（こしやう） たたき台」で電動モーターの時代まで使われていたそうです。一説によると旧道祖神は、他の集落へ「嫁入りした（盗まれた）」のだとか。この「道祖神盗み」の風習は、古くから安曇野地方や大岡各集落にもあったようです。境界から富をもたらす道祖神に、地区活性化の願いを託したともいわれています。



「道祖神盗み」の風習の足跡、現在の梶平地区道祖神。右は二十三夜塔。

◎集落に入ると聖山の清流、樋ノ口沢から取水した堰の水音が豊かに聴こえてきます。この「峰堰」(梶平水路)にはイワナが入ってくることもあるとか。3割は下流に分水されています。

◎家の周囲に実のなる木が植えられ、夏には田の端に、盆棚に水を手向ける「ミソハギ（禊秋）」がたくさん咲きます。



集落の前に広がる田の風景。先は犀川対岸の山々の峰が重なる独特の空間。峰々が諏訪社の紋章「楯の葉」のようにも見える。右手は樋ノ口沢の谷で「梨木」地区の熊野社のこんもりした社が見える。昔は谷を越えて往来する道がよく使われていた。

こま
研して山ほととぎすほしいまま
あじさい あきひ
紫陽花に秋冷いたる 信濃かな
(杉田久女の俳句より)

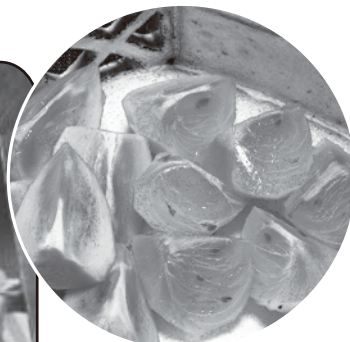


ミソハギの花 (夏)
お盆の水向け花。

晩秋まで色あせないで残る紫陽花。



本に紹介されている大岡の漬柿。



大岡でも食べたことの無い人も多い。透き通った美しい色合い、塩味がほんのり効いた独特な甘みと食感には子供も大人も大好き。お酒の酔い覚ましにもなる。

漬柿の名人

ベストセラーの漬物本で紹介された
幻の漬物。



霧のかかる場所だと特に美味しいと言われる柿。干し柿は現在でも一般に作られる身近なものですが、大岡ならではの味に「柿の漬物」があります。信濃毎日新聞社刊行のベストセラー『横山タカ子著・作って楽しむ信州の漬け物』で梶平の小林敏さんが漬け方を紹介。温度条件や柿の状態で変化しやすい漬物で、商品化はできず、あまり知られていないのかもしれませんが。早めに収穫したハチヤガキを3%の塩水に漬け、正月に食べます。

② 大田和 集落を訪ねて

谷沿いに開ける視界 犀川上流風景一望。

◎大田和地区は市道児玉橋線の上下にある集落、上方頂上の「淀峰」は標高735m。傾斜が谷間を包むようにカーブしそこに人家が点在しています。現在居住は6軒。ここでは奥行きある雲の湧く溪谷風景が日常の景色です。

◎市道から上方に入った集落の境界、松の木の根元に道祖神。近くに巡拝供養塔や馬頭観音もあります。地区分けは西大田和、東大田和、下大田和で、この地区の水道は宮平から引いています。なお、「梶平」は昔から大田和とは「兄弟村」と言われてきました。

犀川沿いに裾を重ねる峰々から雲が湧く。



貴重な茅葺き屋根の家。



地元用材と土ですべての建築は賄えた。



◎シヨイコ&ネズヨ

かつて山道で欠かせない運搬具だった「しよいこ：背負子」、その重要な「相棒」だったのが「ねづよ」。



ソウマさま そましよく ◎杣職の道具

◎長屋門の家

明治以後は般に作られるようになった造作だが、江戸時代までは細かく規制されていた。和平組では、天明七年（一七八七）に「門屋」という居住記載が残る。元来、家臣の住居であった武家門（長屋門）で、現在は農業納屋として使われている。近隣では、会田宿や松本・安曇野地方にその様式が残っている。なお、火事を出した家は長屋が作れないという掟もあった。

梶平のニツ木家（屋号：向屋敷）に木挽き鋸、鉞などのソウマ（杣職）道具が残っている。樺太（王子製紙）でも仕事をした祖父は「ソウマさま」と呼ばれた。また、相撲角力「月夜川政治」の名もあった。製材までを担当し、庭先で板を引いた。昭和34年74歳で逝去の際は自分で作っておいた棺桶があったという。

大田和

梶平

女蔵里



③ わだいら
和平 集落を訪ねて

奥座敷に広々とした
 田畑を配した集落。

◎和平地区は兎玉橋から市道を登り、道が大田和方面へ大きく屈曲する辺りの集落。上は「峰」下は「窪」と呼び、道沿いに常蓮寺があります。犀川に接する河岸段丘には鳴沢の流れと水路を利用した水田「和平沖」が広がり道は町田集落へ向かいます。標高543m。現在居住は2軒です。

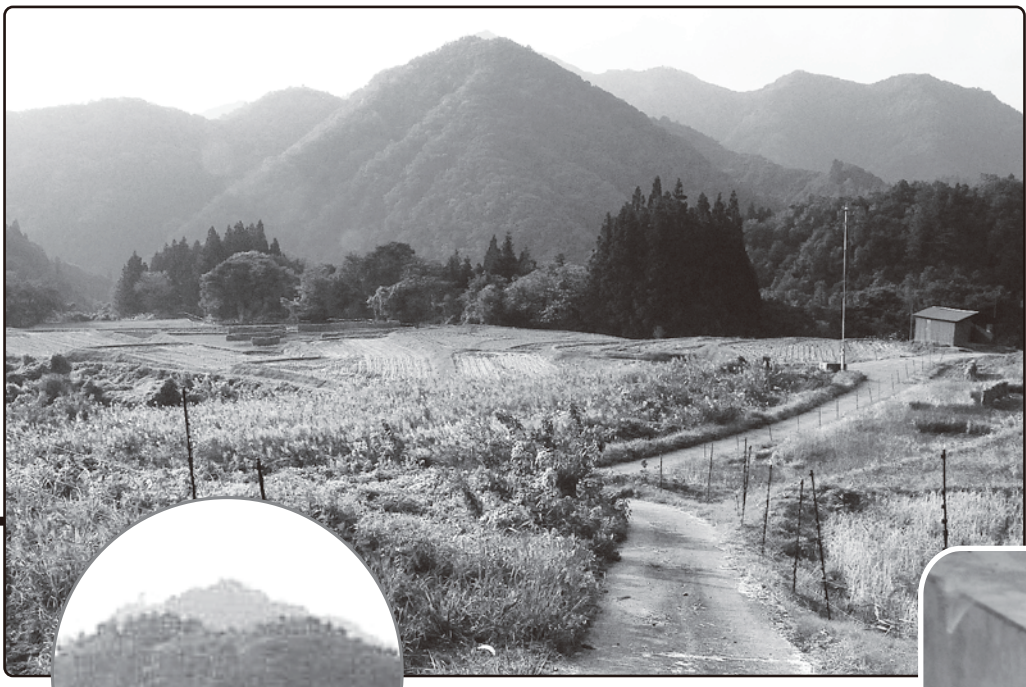
◎集落の中を通る市道兎玉橋線沿いの一角に、子安観音・道祖神・二十三夜などが集められ祀られています。



市道沿いに道行く人々を見守る和平の子安観音。道の造成で周囲の道祖神・庚申塔・二十三夜塔等も集まっている。

わだいらおきーずいどうー
和平沖の随道

◎和平沖の田は、小聖の湧水が水源の「和平水路」から引水。途中、豊水穂神社のある峰を越すために、大岡唯一の用水随道（トンネル）が八十年前に掘られました。その長さは七五メートル。いまでもこのトンネルから豊かな水音が響いています。



大人が腰をかがめてやっと通れるぐらいの広さ。入口はコンクリート、内部は岩盤壁。

75m先の入口がかすかに見える。



和平集落の峰先に広がる田畑の風景。正面には対岸の山がどっしり富士のよう、稜線も美しく坐している。地名由来かはわからないが、田園正面の道から見ると、ちょうど後方の大姥山と山頂が重なり合って（和合して）いる。日本の山岳信仰には富士の「不二」にみるように和合の思想が基礎にある。

常蓮寺の地藏菩薩

常蓮寺境内の地藏菩薩は、両脇時に童子と一緒にユニークな三尊像。「元禄七歳戌(1694)奉造立久保田氏内方□□」の銘があり、ほかにも同年建立の石灯籠がある。大きな地藏菩薩像や地藏菩薩本尊は松代真田家縁の寺にも多く、真田家紋六文銭も地藏尊との縁が深い。



梵鐘に天宗寺・清水寺・江戸時代の人名と思われる名が多く見える。

枝桂山常蓮寺

明治元年に真田家の菩提寺、松代長国寺から僧が復興に入る。



明治5年の寺院一覧に、常蓮寺は「天正11年(1583)に窪田監物が源信繁菩提のため宮平天宗寺二世を開山として創建」と記されています。「源信繁」は武田左馬頭源信繁(武田次郎=武田典厩信繁=信玄の弟)の名と通じますから、窪田氏は武田氏元家臣だったのかもしれませんが。江戸時代には檀家もなく廃れていたと思われるこの寺は、明治の廃藩後すぐ、真田家の菩提寺長国寺から僧が来て中興しています。現在は無住ですが、近年まで住職もいて、復興後も盛んに寺を興した気配が残っています。

とよみずほじんじゃ

津森 豊水穂神社

「山頂静幽」の地。 峰上の和平産土神。

◎峰がいくつも連なる和平地区では頂上に必ずとつていほどお社が祀られています。和平沖の東にある峰の頂上には、御祭神「菅田別命」を祀る豊水穂神社があります。明治十四年の大岡神社「覽表」には「山頂静幽の地」と添え書きがあり、現在もその言葉にふさわしい神社の佇まいを見せています。

◎祭日は八月二十三日。明治に入って神仏の混淆は禁止、周囲の小さな神社を統合する政府の方針があり和平村の「村社」とされました。本殿内部にはいくつもの「祭神」が集められ合祀されています。



和平地区発行の風俗史
『和平地区の年中行事』より
(抜粋)

祭りでは、神主、村長、氏子総代、各集落の若衆頭(祭典係)、楽隊、神楽、参列者の順で並び、和平組は当所ということで最後尾に位置して練り込みをしていた。この順序については毎年申し合わせで決められていた。決定までに時間がかかり、ある時点から引ききで決めることになったという経緯があった。氏子総代の身支度は、羽織、袴。夜祭には氏子総代と祭典係は、係名と黒と赤の二本の横線が上の方に入った提灯、各氏子は前面に太字で部落名、裏側に小さく屋号または氏の入った提灯を持って祭列に加わった。春・秋祭には、家内安全、五穀豊穰、無病息災を祈願し、神楽、獅子舞、音楽隊、宝舟、相撲、芝居等を奉納した。露天商も七八店が軒を並べ、氏子はもとより、近隣、近在からも大勢の人が集まり、賑やかであった。現在は、和平、大田和、梶平、仏風、桐木、萱川場、女蔵里、町田、下大岡の氏子に護られている。



拝殿の中に鎮座する本殿。
傍らに小さなお社がいくつか見える。



神社本殿破風、
優美な装飾がみられる。



明るい峰がそのまま参道、
広い境内には土俵も残る。



おふだを納めに参ります 木のおふだ

寺社に古札を納めるのは、単に古くなったものの処分に困るから持って行く、というわけではない。その昔名前等を書いた木の板を柱等に打ち付けて願掛けをしたことからそう「札」と呼ばれる。江戸時代には木のお札は姿を消し「紙の札(千社札・せんじゃふだ)」へと変化していった。

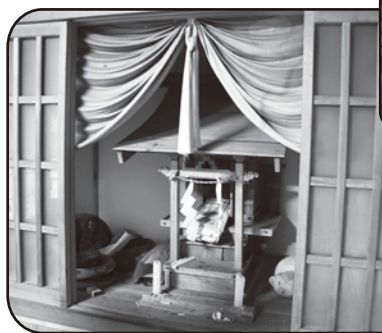
大田和 古峯神社

ふるみねじんじゃ

◎大田和地区にある「大田和・梶平倶楽部」の建物内には古峰神社が祀られています。周囲には大きな幟旗の竿があり、かつては賑やかに祭礼をしていました。また、集落の若者たちが集った場所でした。



倶楽部の壁に各
神社担当役員札。



栃木県鹿沼市「古峯神社」から
お札が届いていた。火防の神として
知られている。

豊水穂神社 六文銭の奉納幕 は真田六文銭!

昭和57年に奉納された奉納式幕。白地にくっきりと六文銭が引き立つ。社寺に奉納される幕は家紋や奇進縁者の紋が多く、いつからかは伝わっていないが、この神社ではかつて松代藩や真田家からなんらかの寄進があり、氏子も誇りとして六文銭を掲げてきた可能性がありそうだ。



六地藏 (大田和)



二体づつ光背に入っている六地藏。

巡礼塔 (大田和)

「父母の孝養平安のため」堀田終吉が
文化三年(二八〇六)に建立。



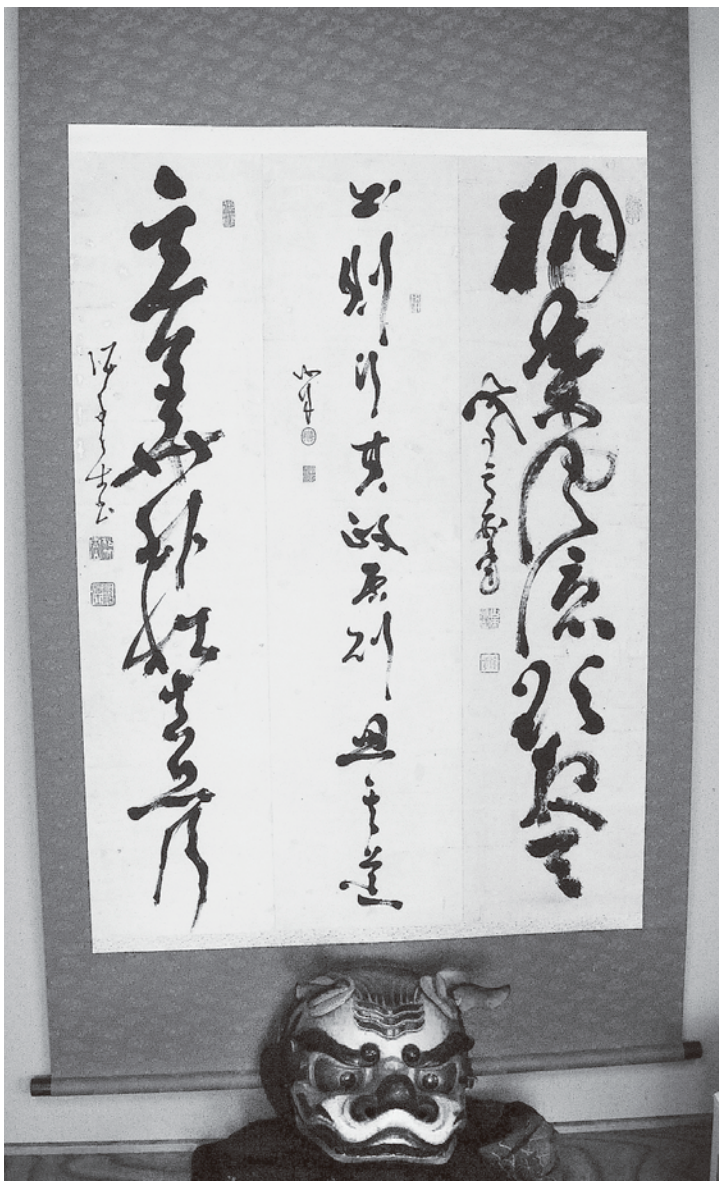
③ 和平分校跡

「和平ふるさと館」を訪ねて。

◎和平分校は大正元年開設の分教場を前身とし、昭和二十二年、大岡小学校の分校として北小松尾・笹久・根越の各分校とともにスタートしました。昭和三十二年の児童数三十八人、先生は一人で同じ時間に1・2年が読本（国語）、3・4年が算術（算数）の授業でした。昭和四十一年本校に統合され閉校。分校跡地は「和平ふるさと館」となり、現在に至ります。



和平分教場開設の頃。開校式のためにオリジナルソングが作られた。歌詞が民俗資料館に残っている。



左・「立美老松志亦行」※仮読み

中・「出則行其政 居則思其道」
漢魏叢書「忠經」
※前後の詩を加え
公家之利、知無不言。出則行其政。
既在其位、職思其憂。居則思其道。
益國之道。動則有儀。

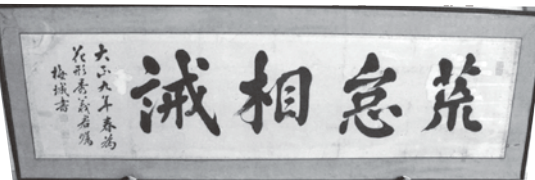
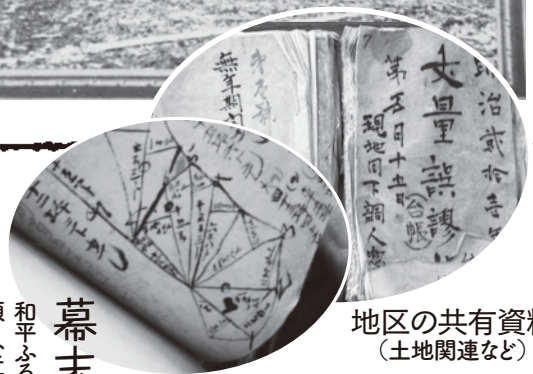
白髮頭の老松書監は、
書物を枕にして昼寝する。
終日、忙し、仕事のつも無く、
桐の葉が風に踊り飛ぶ、
暮れようとする空の下。

右・「桐葉風涼欲夜天」白居易
和漢朗詠集卷上秋「早秋」
桐葉風に涼し夜ならん欲する天
槐（えんじゆ）の花が雨に
みずみずしく湿る、早秋の地。

幕末三州の書
和平ふるさと館の床の間には古い獅子頭と、近年に三つの書を重ねて表装した「幕末三州」山岡鉄舟、勝海舟、高橋泥舟の書とされる軸があります。由来経緯は詳しくは伝わっていません。

地区の共有資料 (土地関連など)

日本において土地の所有権が確立したのは明治維新後でした。和平ふるさと館には当時の土地資料と思われる明治21年町村制公布までの資料がたくさん保存されています。また、明治11年頃の役場は「大岡村扱所」でしたが、その仮役所は、和平常蓮寺を借用していたといえます。



「荒怠相戒」
乱暴や怠慢を互いに戒めよう
明治～大正の日本は、
和平の文教所の雰囲気は
こんな感じだった!

◎「荒怠相戒」は天皇による国民への直接の訴えという形で明治四十二年文部省が發布した「戊申詔書」にある言葉で、諸国間の友好、国際平和を訴える内容で始まるものでした。
◎「通釈」※前後を加え
目下、人類社会は、月日の進行とともに、東西の世界が互いに依存しあい、国々が助け合い、そのことによつて福利を共有することができるようになってきている。国家を結び、友誼をあつくし、諸外国と共に永くその恩恵に頼つてゆく、こうと思う。振り返つてみれば、今日の東西融和の流れに沿つて文明の恵みを受けることは、国内の発展のためにも不可欠のことだ。

津嶋神社

つしまじんしゃ

もう一つの山頂静幽の峰。甘酒祭でにぎわった。

◎和平地区北方の大きな独立峰の頂上にあるお社は昔から地区の心の拠り所です。時代の変遷で現在は地区センターの建物が拝殿となつて風雨からお護りしている。祭神は素戔嗚命。古来牛馬の神と子供の守護神として信仰されてきました。



全国に約三千社もあるという津島神社の総本社



◎春の例祭日は現在4月29日、秋は9月27日。

『和平地区の年中行事』より (抜粋)

村の中央から犀川へ下る道筋には尾根峰が連なり、この峰々は聖域とされ、なかでも比較的平坦な淀峰には中程に津島神社、西側に鹿島神社が祀られていた。明治後期の神社合祀令により、宮々が郷社・村社に合祀されるなかで、津島神社は淀峰幣下といわれ、女蔵里、梶平、大田和、萱刈場、桐木、仏風の氏子に護られて、春秋の例祭が行われてきた。

春の例祭は「甘酒祭」といわれ、当番の集落で甘酒をつくり、神社に献上して無病息災・五穀豊穡を祈願した。毎年四月に入ると、大田和、萱刈場、仏風、女蔵里、梶平の総代が集まり、例祭日と(甘酒の)練り込み時間、当年の白米を集める量、集める日時等を決めた。昭和二十年代までは戸当たり五合、現在(平成十六年現在)は三合である。当番者は半分を梶として、当番集落の女性が共同で甘酒を造る。このとき使われた甘酒桶は、上部の径が尺五寸(四十七センチ)、下部が尺三寸(四十センチ)、深さ尺六寸(五十センチ)で、三斗五升も入る大きなものであった。祭りの当日は男性が新しい縄と担ぎ棒を用意して、当番宅より甘酒桶を担いで神社に向かった。例祭日には、和平地区はもとより、他地区からも大勢の人が集り賑わった。秋は夜祭が行われ、神前はもちろん社前にも、また集落の参道にまで灯笼の灯がともされて、神楽囃子の笛・太鼓の響きと共に揺れ動く御輿神楽の提灯は宵闇を照らして、勇壮な光景が展開した。

参列する人々の持つ提灯には、筆太に氏子総代とか祭典係とか集落名が書かれていた。神社の東側には土俵も残されていて、草相撲の盛んだったことを物語る。また、小屋掛けをして素人芝居や踊り等も若者連の企画で行われた。

戦後の昭和二十年代後半には、草葺き屋根の集会所「淀峰俱樂部」が造られ、電気も引かれた。映画会も幾度か開かれ、旅回り一座の演劇の照明にも使われたが、その都度、庭は、いはいの観客であふれていた。

その後、倶楽部の屋根も瓦にふきかえられた。この時、津島神社と旧鹿島神社境内の立木が伐採された。老朽化した社殿も取り壊されて、倶楽部の上座、床の間に遷宮された。境内地は、村のブルドーザーにより整備され、平らな広場となり、ここで消防ポンプ操法の訓練も行われたりしたので消防広場ともいわれた。

昭和五十年代後半には、この淀峰俱樂部も取り壊され、広場は五メートルほど床下げをして山の峰にグラウンドの出現を見た。

その西側に和平地区の総合的集会所施設が補助事業で建設された。津島神社も、地区センター内に再度遷座された。

なお、昔から、春の例祭は四月八日とされていたが、後に祝日の四月二十九日緑の日に行われるようになった。秋の例祭は九月二十七日夜に行われ、今日まで続いている。



これがウワサの甘酒を仕込む大ダル。

わが国は戦後なお日が浅く、各方面において今一度、緩んだ弦を張りなおすように、姿勢を亂す必要がある。地位の高い者もそうでない者も心をひとつにして忠実に仕事に励み、節約して生計を整え、信と義を重んじ、人情に厚い習慣をつくり、華やかなことを退けて実質あるものに力を注ぎ、乱暴や怠慢を互いに戒め、自らすすんで絶えず努力しなければならぬ。

和平分館で平成十六年に作成された『和平地区の年中行事』

◎どの地区でも過疎化がすすむ大岡ですが、和平地区で特筆されるのは昔から伝承されている行事のことや、地域のことを中心に次世代へ託す伝言を小冊子にまとめていることです。これは他の大岡地区にはみられないもので、和平地区の方々を引き継いでこられた先見性の気風が現れているとも言えます。手づくりのぬくもりが伝わる名著、今回の資料に一部分を引用させていただきました。

一年間の行事から神社の祭りの思い出なども掲載している。



ぶっかぜ
5 仏風 集落を訪ねて

峰の松林を渡る風
谷間に響く水の音。

◎仏風地区は市道児玉橋線から入った谷間にある集落。南向きの日当たりのよい斜面に、下から吹き上げる川風を避けるように、山肌に民家が肩寄せ合って建っています。現在居住は2軒です。

◎集落の入口に道祖神や石祠群があります。集落対面の峰と集落の上手にもかつてお堂があり、現在も卵塔（僧侶・尼僧の墓）や古い供養塔が残っています。また、廃堂からお移した観音さまや弘法大師像をお護りする公会堂があります。

◎かつては柵木・萱刈場と集落が連なっていました。が、いまは地名を残しています。

家の裏山に石仏の群れ



道祖神などが集まった一角。



地区でお護りする聖観音像と弘法大師像。

寺子屋の教材「村名附」から派生した歌だろるか女蔵里に住む子供の記録によると、寺子屋から書き与えられた近村の村名附がしだいに遠くへ続け、松代付近の村名におよんでいる。これを手本に字を習った。

おんぞうり
女蔵里は、一倉田和

負けて栗尾・高市場、
安賀・川口、銭は梨木



おなぞうり
女蔵里 集落を訪ねて

水田地帯の上手
四季が彩る静かな谷。

◎女蔵里は樋ノ口沢の水が豊かに流れ、広い田が続く沢の上手にある集落。仏風とも似たなだらかな谷あいに住宅が点在しています。現在居住は5軒です。

谷間に広がる女蔵里の田園。ほ場整備されている。

四季の彩りもゆたか。



女蔵里を上手に樋ノ口沢を渡る。

残っていた
貴重な習俗



仏風の矢野里留さんは、修験僧に名づけられたといひ、その名のおりりとは何でも知っている老翁。現在ではあまり使わなくなった「ネコ」や、盆棚の「ゴザ」を編む技術を伝えている。特に盆だなのゴザは善光寺平や西山地区ですでにどの家庭も市販の花ゴザになつているところを、左右のヒゲを長く残すなど、盆棚の意味あいのルーツを感じさせる習俗を残すもので貴重。全国では伊那地方や成田周辺で現在も手編みされている。



精霊・無縁仏が寄り付き易いように左右の草を長く編み出すといふ。